

ボランティア 必要な備えは

十和田市社会福祉協議会は13日、同市の東コミュニティセンターで災害ボランティア講座を開いた。市民21人が参加し、災害時に断水したらどうするかや、ボランティアとして必要な備えなどについて考えた。

講師を務めた八戸学院大学短期大学部介護福祉学科の鳴海孝彦教授は、能登半島地震の被災地では断水が続いていることに触れ「年中を通して

十和田 社協が講座

て困るのは水。断水したらどうしようということを考えておかないといけない」と説明した。

参加者たちは4、5人のグループに分かれて災害時に不安なことやボランティア活動で必要なことについて話し合い、「助け合いと連携プレーが大事」「避難所での生活を考えて自分で用意した防災グッズを見直してみる」など意見を出し合った。鳴海教授は「大事なのは日頃の生活の中で疑問を持つこと」とし、「自分で備えることを能登半島地震は如実に教えてくれた。能登半島地震は人ごとではない」と強調した。

参加した同市の島谷いつ子さん(74)は「災害はいつ起きるか分からないので、何度講座を受けてもいいと思った。冬なので電気を使わずに暖を取る方法についてもグループで話し合った」と話した。

講座は災害ボランティアに関する基礎知識の習得や、災害に対する意識向上のために開催し、今回で3回目。

(大庭菜摘)



鳴海准教授（中央）からアドバイス
をもらいながら災害ボランティアの
活動などについて考える参加者たち